

◎ 静岡市をめぐる現状と課題について

資料 2

I 注目すべき社会経済の潮流変化

項目		説明	本市の状況	まちづくりへの影響と左に対応したまちづくりの方向	
潮流	注目すべき社会経済の潮流変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 長寿社会の出現 <ul style="list-style-type: none"> 平均寿命(2007年) <ul style="list-style-type: none"> 男・79.19歳 女・85.99歳 高齢化率・21.7% ・ 少子社会の出現 <ul style="list-style-type: none"> 合計特殊出生率 1.34(2007年概数) (人口維持のためには 2.08必要) ・ 我が国人口 2005(平17)年をピークに減少に転じた模様 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1990(平2)年から人口減少都市 ・ 高齢化率・23.75% (中山間地においては31.33%超) (2009年3月末) ・ 合計特殊出生率・1.22 (2005年国勢調査) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口増加を前提とした社会システムの改変要求 ・ セーフティネットの脆弱化 ・ 社会の生産性低下 ・ 担税者層の縮小 ・ 医療・福祉需要増大 ・ 医療崩壊 ・ 家庭の変化 ・ 夜間人口の増加とともに交流人口の増加を重視する考え方への転換 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少を前提としたまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ・ コンパクトシティへ ・ 身近なコミュニティでの基本生活ニーズの充足するまち ・ 近隣商店街の復活 ・ 落ちつきのある都市文化構築 ・ 弱者への思いやり教育 ・ 新しい「公」の機会導入 ・ 市民団体と行政との協働推進 ・ 社会コストの縮減 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者、女性の雇用増加 ・ 市民の連帯強化 ・ NPOの活用 ・ 公共事業の見直し ・ コミュニティ再建 ・ PPK推進 予防重視 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療・福祉ニーズと供給体制再調整 ・ 健全者と障害者の共生のまちづくり ・ 健康老人のまちづくり参加促進 ・ 介護保険制度など「措置から契約」へ(福祉の社会化)
	国際化	<ul style="list-style-type: none"> ・ アメリカンスタンダードの浸透 ・ 大競争時代の到来による一物一価の世界化、市場の統一、供給力増大によるデフレ圧力強まる ・ ヒト、モノ、カネ、情報等のグローバル化、複雑連関化 ・ 輸出偏重から内需主体の経済構造への転換 (国民の暮らしの質向上) ・ 産業の空洞化 ・ 大交流時代の幕開け ・ 圧倒的な出国者数と小さい入国者数 ・ 東アジアの経済的発展 ・ 静岡空港の開港 ・ 世界的経済危機 ・ パンデミックへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人登録者 8,834人(2009年4月末) (内訳) <ul style="list-style-type: none"> 中国 2,269人 在日者 1,795人 ブラジル 1,434人 ・ アジア諸国からの留学生が多いことが特徴(留学生総数 442人) (2009年4月末) <ul style="list-style-type: none"> 中国 263人 インドネシア 30人 ベトナム 24人 ・ 海外に生産拠点をもつ市内企業 82社 国別は延べ 164社 (2008年4月静岡県調査) (延べ会社数の内訳) <ul style="list-style-type: none"> 中国 58社 タイ 17社 インドネシア 8社 シンガポール 7社 台湾 7社 ・ 外国人受け入れソフトウェアに乏しい ・ 国際的コンベンションの開催状況 4回/年 (2007年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人の中に入って活躍する人材育成の必要性増大 ・ 勤務場所の国際化 ・ 外国人経営者、タレントなどの活用による再生の場面増大 ・ 外国人観光客ニーズの高まり ・ 外国人の訪問増加 ・ 低所得者層の増大 ・ デフレの進行 ・ コスト競争の破綻 ・ 低コスト社会への圧力強まる ・ 雇用のミスマッチの発生 ・ 企業の市外への流出 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際人の育成 (例：サッカー、テニス、野球選手) ・ 外国人との共生社会づくり ・ 内外からの本市への投資誘発環境づくり ・ 外国人向け観光資源開発 ・ コンベンションの誘致 ・ コンベンション産業の集積 ・ 企業留置、誘致 ・ 国際競争力のある高付加価値産業の育成、集積 (オンリーワン企業等) ・ 東アジアとの交流強化 ・ 国際入札 (WTO) ・ 外国人のまちづくりへの参加 ・ 新時代の産業に対したリカレント教育の強化 ・ 基礎学力、基礎学習の徹底

項目		説明	本市の状況	まちづくりへの影響と左に対応したまちづくりの方向	
潮流	注目すべき社会経済の潮流変化	<ul style="list-style-type: none"> ・情報が社会発展の原動力になる社会 ・付加価値の高い情報の生産加工、分析、発信能力が都市発展を左右 ・情報化は 産業→社会→家庭→個人の順に進行 〔現在は、家庭、個人の情報化が並行的に進行している段階〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京1極集中の影響下にある ・県都として一定の情報生産力を有する ・電子市役所の取組は遅れている 行政職員のパソコン保有率100% PC 小 2人1台 中 1人1台 ・R&D企業の集積度は弱い ・情報通信基盤整備はNTT任せ ・中山間地域の格差 ADSL 光ファイバー 地デジ ・情報通信リテラシー教育は他都市なみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京支配に埋没 → { <ul style="list-style-type: none"> ・独創性ある人材育成 ・人材、タレントの集積、誘致 ・支店→出張所 支社→支店 への格下げ → ・情報生産企業の東京移転 → ・情報通信基盤を新しい社会資本としてとらえる必要性大 → { <ul style="list-style-type: none"> ・情報通信基盤の整備 ・電子市役所整備（低コスト社会の実現） ・情報通信リテラシーを備えた市民が必要 → ・雇用のミスマッチの発生 → ・R&D的企業の集積誘致 ・経済的実力をつける ・情報通信リテラシー教育充実 ・新時代の産業に対応したリカレント教育の強化 ・徹底した基礎学力を身につけさせる義務教育 	
	環境問題の深刻化	<ul style="list-style-type: none"> ・環境破壊の進行続く ・身近な生活環境の質への関心高まる ・オゾン層の破壊、温室効果ガス増大・地球温暖化等、ヒトの生存条件そのものへの影響増大 ・大量生産・大量消費・大量廃棄の社会システムの限界露呈 ・資源の高騰（レアメタル・化石資源等） ・4Rの原則と順番は浸透し始める Refuse → Reduce → Reuse → Recycle 	<ul style="list-style-type: none"> ・広大な森林の存在 ・身近な生活環境への関心の高まり ・最終処分場の能力限界 ・ごみの増加続く ・清掃工場の新設（1,100t/日体制） 熱回収のみ実施 ・化石燃料への依存都市 ・風力発電 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物の市城内処理原則 ・化石資源に過度に依存しない都市への転換の必要性 ・環境教育、啓発活動の必要性増大 ・物価上昇、消費減退 ・新エネルギーの開発、利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> → { <ul style="list-style-type: none"> ・カーボンオフセットの考え導入 ・CO2の地産地消 ・素材革命への準備 ・より環境負荷の小さいライフスタイルの選択 ・4Rの徹底 ・高品質なものを長く使う、使い切るライフスタイルの選択 ・移動距離の少ない物資の利用 ・地産地消の推進 ・近隣商店街の復活 ・廃棄物処理場の確保 ・環境調和型産業の立地促進、集積、環境投資誘発環境づくり → ・新エネルギー利用促進策
	地方分権の進展	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村優先の原則 ・道州制議論 ・国、地方を通じた財政危機（公債残高1,000兆円） ・第1期分権改革 三位一体改革（補助金、税源、交付税の一括改革） ・第2期分権改革 地方政府構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央集権促進要因もある * 国家戦略づくり * 規制強化 * 対外調整 * 選択と集中の強化 ・完全自治体でない道州制への危機 ・市債残高（見込）3,563億円（1人当たり49.6万円） * 住民基本台帳人口718,623人（一般会計 2008年度末） 	<ul style="list-style-type: none"> ・大都市としてのさらなる機能強化 ・消費的経費の増大と投資的経費の減少 ・市債残高の増加 ・社会資本の更新期到来 ・法令等による義務付け、枠付けの見直し 	<ul style="list-style-type: none"> → { <ul style="list-style-type: none"> ・大都市としての態容づくり ・コンパクトシティへの転換 ・静岡ブランドづくり → { <ul style="list-style-type: none"> ・経常経費の縮減 ・収入増加策 ・組織のスリム化 ・公共事業の見直し ・NPOの活用 ・健康老人のまちづくり参加促進（PPK） → ・社会資本の更新を計画的に推進 → ・本市独自の例規制定等

II 本市のファンダメンタルズの評価

凡例：◎有望 ○有力 △疑問 ×マイナス

項目 条件	項目	説明	効果	今後の都市発展上の評価
自然条件	<ul style="list-style-type: none"> 北緯35度都市 市域の広大性 地形上の特徴の多様性 東海地震 	<ul style="list-style-type: none"> 長い日照時間と豊かな降水量 温暖（年平均気温16度） 多様な地理的要素保有 海岸線、山岳、大河川、丘陵平野、湖沼、温泉、金鉱 里山、フォッサマグナ、世界一の深度を持つ駿河湾 南アルプス M8クラスのプレートはねあがり型の大地震 いつおきてもおかしくない 	<ul style="list-style-type: none"> → 快適居住空間の形成 → 多様な生活様式・暮らしが可能 → 豊かな自然環境安全で豊富な地下水 → 自主防災組織の充実 → 我が国で最も充実、先進の防災対策の実施 → 21年度で幼保小中校耐震化100%達成 → 市民生活、産業活動への不安 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ×
地政学的条件	<ul style="list-style-type: none"> 東アジアとの近接性 首都圏とのほどよい距離 国土縦断幹線の通り道 東西文化の接点 静岡県の中央部に位置する県庁所在都市 	<ul style="list-style-type: none"> 大陸に弧状に対して日本列島の中央部にある本市は東アジアのどの地域とも平均的距離に位置 首都圏からは独立しつつそのメリットは享受している 現・新東名、新幹線、東海道本線、国1、光ファイバ幹線など、国土重要幹線はすべて海岸線から10kmの幅の地域を通過せざるを得ない 国語、食生活、風習・風俗などで我が国東西文化のクロスポイント 県勢・県政の中心としての地位 	<ul style="list-style-type: none"> → 今後の東アジアの経済的発展を踏まえると交流拡大のチャンス → 静岡空港は大きなチャンス → 活発な産業経済活動 → ヒト、モノ、カネ、情報の流通経路にある → ヒト、モノ、カネ、情報の流通の副次的メリット享受 → 回廊性から脱却できない → 大規模社会資本整備をまちの発展に活かす一大チャンス到来 → 多様な文化の受容性に富む → 地域個性に乏しい → 一定水準での中枢管理機能の集積 → 道州制移行時はこの地位保持できない（州都にはなれない） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ○ ○ ○ △ ◎ ○ × △ ×
社会的・経済的条件	<ul style="list-style-type: none"> 過疎と過密の併存 バランスのとれた産業構成 380万人口のマーケット中心地（GDP3%経済圏の中心） 本市はGDP0.6% 全国17位の大都市 テストマーケット地 物価が高い 19～24歳人口の流出超 中心商店街が元気なまち 生産高日本一の産品を多く有する 伝統的地場産業集積 清水エスパルスのホームグラウンド 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な社会的条件具備 1次から3次産業まで、バランスよく産業が集積 一定規模の経済力 我が国の平均的な消費行動地 高コスト社会を形成 大学進学、就職等で若年層が流出し戻ってこない 高地価、幹線道路未整備などからロードサイド型店舗が少ない 県を代表する専門店街の集積 生産額は小さいが個性的商品が多い（仏壇仏具、雛具・雛人形、紳士ものサンダル、プラモデルなど） 日本で唯一の市民球団 市民の中の厚い選手層 	<ul style="list-style-type: none"> → 多様な市民生活の可能性 → 行政投資の分散、非効率 → 大都市型産業構造転換に障害 → 多様な産業展開の可能性 → 世界的レベルの豊かさを享受 → 没個性としてとらえずに「売り」として打ち出す → 活発な産業経済活動を阻害 → 活力低下、人口減少、経済力低下 → 全国一の中心商店街の存在 → 都市の魅力、集客力につながる → 個性と水準維持が課題 → 工房都市、デザイン都市として成長可能 → 地域個性として主張できる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ △ △ ○ ○ ○ ○ × × ◎ ◎ ○ ○ ○

<p>社会的・経済的条件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新東名、中部横断道、静岡空港など大規模社会資本の整備 ・特定重要港湾・清水港 ・静岡大火、静岡空襲、清水艦砲射撃 ・品種化技術の高さ ・個性的イベントの開催 ・全国ブランドの観光地 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの発展にとって一大チャンスの到来 ・全国7～8位の貿易額の有力港(輸出に偏重) ・昭和中期に壊滅的被害を受け、歴史文化的たたずまい、歴史的建造物などを焼失 ・ワサビ漬、ヤブキタ、アオシマ、アキヒメなど高い品種化技術と人材の存在 ・大道芸ワールドカップ ・羽衣薪能 ・三保の松原、日本平、登呂遺跡、富士山の眺望、南アルプス、久能山東照宮 <p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のまちづくりの方向を規定する効果(例:交流文化都市) ・内外の交流拠点 ・都市的土地利用への転換 ・船荷は安価で大量の運搬に向いている ・長い歴史のわりには伝統文化を表象する力が乏しい ・新しい伝統文化創造のチャンス ・知識集約型産業、知的財産として注目される ・新しい市民参加型産業文化として可能性あり ・交流文化都市づくりに活用 	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>×</p> <p>○</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>◎</p>
<p>歴史文化的条件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・弥生時代からの定住地(登呂遺跡) ・奈良時代からの国府 ・今川氏の城下町 ・家康公時代首都を体験 ・天領 ・伝統文化、民俗資料の厚い蓄積 ・朝鮮通信使ゆかりの寺「清見寺」 ・庵原・有度・安倍3郡を統治した大名「小島藩」 ・西園寺公望公「興津坐漁荘」 ・多彩な人材(財)の存在 	<ul style="list-style-type: none"> ・快適居住地として長い歴史を有する ・古代から地域NO.1都市の地位をキープ ・政治行政都市の性格を形成 ・隠居のまちではなく天下に号令したまち ・大名統治の経験があまりない ・歴史伝統は短期間では形成できない貴重な資産 <p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚い伝統・歴史的文化的蓄積がある ・地域個性が少ない ・地域個性のなさ、創出のチャンスでもある ・積極的に主張する必要性 ・まちづくりの資産 	<p>○</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>△</p> <p>○</p> <p>◎</p>